

令和8年度 第2回 学びの多様化学校設置に係る有識者会議

日 時：令和8年7月23日（木）10：00～12：00

会 場：浜松市教育委員会 教育委員会室

1 開 会

2 委員長挨拶

3 報 告

- ・ 本日の協議題等に関わる前回会議の意見 まとめ【資料1】

4 協 議

- （1）特別の教育課程編成について【資料2】
- （2）教職員の体制等について【資料3】

5 連絡事項

6 閉 会

【配付資料】

- 資料1 本日の協議題等に関わる前回会議の意見 まとめ
 - 資料2 特別の教育課程編成について
 - 資料3 教職員の体制等について
-

令和8年度 学びの多様化学校設置に係る有識者会議 名簿

1 委員

所属等	役職	氏名
浜松市教育委員会	教育長	野秋 愛美
静岡大学大学院教育学研究科	教授	武井 敦史
常葉大学教育学部心理教育学科	准教授	太田 正義
社会福祉法人天竜厚生会	健康医療課長	諸田 嘉人
NPO法人すまいる はままつ子どものこころを支える会	理事	小粥 義雄
浜松市立内野小学校	校長	南瀬 悦司
浜松市立中部中学校	校長	鈴木 公一

2 アドバイザー

所属等	役職	氏名
豊島区教育委員会 不登校対策スーパーバイザー	文部科学省 学びの多様化学校マイスター	黒沢 正明

3 事務局

所属等	役職	氏名
学校教育部	部長	吉積 慶太
教育総務課	次長兼課長	鈴木 健一郎
	教育DX推進担当課長	河島 正志
	専門監	伊藤 稚佳子
	副主幹兼企画グループ長	松島 広明
	企画グループ 主幹	井島 健蔵
学校・地域連携課	課長	佐藤 智香
教育施設課	課長	松野 英男
教職員課	次長兼課長	花井 清孝
	採用管理担当課長	飯島 美智子
	主幹兼人事グループ長	古橋 康浩
教育センター	所長	水野 希樹
	主幹兼教育指導グループ長	大橋 健一
	主幹兼研修グループ長	芹澤 一史
指導課	課長	鈴木 健
	主幹兼不登校支援グループ長	石田 達一郎
	不登校支援グループ 指導主事	河合 綾乃
教育支援課	課長	今明 薫
健康安全課	参事兼課長	小松 弓美

令和8年7月23日(木) 10:00～ 浜松市教育委員会 教育委員会室

令和8年7月23日(木) 10:00～ 浜松市教育委員会 教育委員会室



本日の協議題等に関わる前回会議の意見 まとめ

(1) 特別の教育課程編成について

- ・ まずは子供を受け止める姿勢を理念に盛り込むことが重要。
- ・ 「できない」ではなく「これはできる」という強みを認めることを大切に、他者から必要とされる仕組みを作ることが成長に繋がる。
- ・ 子供が学校に行けなくなった経緯や思いを深く理解することが重要。
- ・ 周囲に守られ安心できて初めて学習意欲や進学への希望が湧いてくる。
- ・ 子供は安心すると、本音が表に出る。それが支援の大きなヒントになる。
- ・ 心の回復、好きなことを極めたい子等、子供の選択権に合わせた設計が大切。
- ・ 信頼できる大人のもとで主体的に話し合い、思ったことを実現していく経験は、自己肯定感を育み、次の進路を目指す強い心に繋がる。
- ・ 子供の思いを大人が見抜き、先手を打って環境を用意することが大切。
- ・ 「自分で選べること」が重要なキーワード。
- ・ 多様な選択肢が必要。「どこで学ぶか」ではなく「誰と学ぶか」、来てよかったと思う環境づくりが最も重要。
- ・ 進路選択と「描く夢や未来の実現」を保障できる場として機能すると良い。

(2) 教職員の体制等について

- ・ 設置理念を失わないための人材配置や運用を見据えた仕組みづくりが必要。
- ・ 限られた人数で運営せざるを得ない、配置の仕組みを当初から議論すべき。
- ・ 子供によって話しやすい大人のタイプが異なるため、多様な専門人材を用意し、情報を共有してアセスメントシートに落とし込むことが大切。
- ・ 教育・福祉・医療の三者が連携して子供を支える伴走者体制が不可欠。
- ・ 配置された教職員と、多様化学校を拠点とした人材育成の視点が不可欠。
- ・ 多様化学校を拠点に、他の居場所や各学校とのネットワーク機能をどう機能させるかがポイント。

(3) 今後検討を要するもの

- ・ アクセスを考慮して市の中間あたりに位置すると良い。
- ・ 子供たちの社会的自立を見据えた長期的な視点が大切。
- ・ 浜松市全体の不登校対策を再構築するプロジェクトとして位置付けるべき。
- ・ 通える生徒に限られる中で、誰もが排除されない運営上の工夫が必要。
- ・ 今後、入級や転入の仕組みを議論する際、アセスメントをいつ・誰が・どう行い、入級へ繋げるかというプロセス設計が重要。
- ・ 不登校状態にある全ての子供たちに学びを届けるという理念が必要。
- ・ 各学年で「試行的に入学できる機会」を設けることが考えられる。
- ・ 多様化学校の職員数は不足。特認校の分校にすれば連携しやすくなる。
- ・ 「教育支援センターとの一体的運用」を推奨。

特別の教育課程編成について

浜松市の目指す学びの多様化学校の姿や子供の姿を踏まえ、次の 1、2 の内容について、意見を伺う。

1 特色ある教育課程の編成について

- (1) 子供が「自分らしく学ぶ」観点から
- (2) 将来の「夢や希望」を描き、「志」を育む観点から
- (3) 学び直しや多様な進学・進路ニーズへの対応、多様な選択肢の提供、心理的安全性の保障など前回の議論の観点から

2 工夫や配慮すべき点について

- (1) 教科の新設
- (2) 総授業時数の削減
- (3) 日課表の工夫
- (4) 施設整備・環境づくり
- (5) その他（授業時数の組み換え、指導内容の異学年への移行など）

参考資料)「特別の教育課程の例（中 1 の場合）」

	八王子市立高尾山学園	宮城県白石きぼう学園	大田区みらい学園中等部
総授業時数 (標準時数)	748 時間 (1015 時間)	875 時間 (1015 時間)	980 時間 (1015 時間)
5 科 (標準時数)	325 時間 (630 時間)	365 時間 (630 時間)	630 時間 (630 時間)
減教科	教科の学習は全て減。	教科の学習は全て減。	保健体育科は減。 総合と特活を 0。
増教科	総合的な学習の時間を 120 時間に。	総合的な学習の時間を 105 時間に。	—
新設 教科	—	○「白石タイム」 一人ひとりの状況に合 わせた学び直しの時間 として、未学習や苦手 内容に対応。	○「キャリア教育」 中学校での学習と自分 の将来とのつながりを 意識することを目的と した進路指導の充実。
主な 工夫	○中 2、3 は個別学習、一 斉授業で学ぶコース ○小学部との連携を進め、 小 6 は学年末に中学校の 教員による授業を受け る。	○端末の AI ドリル等を 活用した学習機会の確 保。 ○地域人材を活用した 学校行事。	○本校の部活動に参加可能。 ○SC による全員面接。 ○オンライン授業配 信。 ○転入学支援スペース の併設。

(出典：文部科学省「学びの多様化学校の設置に向けて手引き」令和 6 年 2 月改訂より作成)

教職員の体制等について

学びの多様化学校開設に向けた教職員の体制等について、現段階では以下 1～4 のような視点があると考えている。はじめに 1～3 の内容について意見を伺った上で、4 の内容について意見を伺う。

1 求められる資質（人物像）等について

2 職員構成（具体的な役割）について

3 支援員・補助員等による支援体制について

4 研修等について

- （１）学びの多様化学校配属者に向けた研修（開校前、開校後）
- （２）市内全校向けの周知研修（開校前、開校後）